



学生が生産者を応援

別府市の立命館アジア太平洋大学（APU）の学生3人が、県内の1次産業の生産者を支援する企画「おおいた食のみちプロジェクト」を立ち上げました。

2020年5月12日付大分合同新聞12面

①「おおいた食のみちプロジェクト」とはどんなプロジェクト？

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....

② 3人がこの企画を思いついたきっかけは何だったでしょう？

.....
.....
.....

③ 3人はどんな思いでこの事業に取り組んでいますか？

.....
.....

④ あなたの住む地域にはどんな特産品がありますか？調べて、食べて、応援しましょう。

.....



「生産者の思いを届け、販路拡大にっ
なげたい」と意気込む学生。別府市

APU3人「産品の魅力届けます」

【別府】別府市の立命館アジア太平洋大（APU）の学生3人が、県内の1次産業の生産者を支援する企画「おおいた食のみちプロジェクト」を立ち上げた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で販路減少に悩む生産者に代わって、産品の魅力を伝える情報発信などを通して新たな販路先を開拓する。

情報発信、販路開拓へ

新型 コロナ

3人は起業を目指すなど市内の創業起業支援施設を利用する斎藤直毅さん(21)3年、富原宏樹さん(20)2年、吉川龍さん(20)2年、飲食店の営業自粛や縮小で食材の注文が減ったことから、県内でも多くの生産者が影響を受けていることを知り、4月上旬にプロジェクトをスタートさせた。

産地を訪ね、生産者の思いやこだわりなどをインタビュー。「一個でも多く売りたい」という切実な声も聞いた。専用のウェブサイトを立ち上げ、生産者や産品を紹介する記事を掲載する他、ネットショップやマルシェによる販売など、産品を消費者に届けるさまざまな方法を計画している。

学生たちもアルバイトを失うなど影響を受けたり、プロジェクトを事業化することにした。3人は「生産者の『消費者にうれしい物を食べてもらいたい』という思いや誇り、前向きな気持ちを知った。多くの消費者に届きたいと話している。ウェブサイトは<http://sokunomichi.jp/>、問い合わせは同市田の湯町の創業起業支援施設「アライアンス・ソーシャル シェアオフィス 別府」代表の宮井智史さん(☎090・7156・4474)。

(佐藤弘子)